

全力で新採獲得へ！

≡全支部・全組合員の
総決起で≡

日刊 勤労千葉

80.3.31
NO.390

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（電話二三五八〇九・公巻三三三二七二〇七）

若い仲間の新採獲得をめぐり、組織強化・拡大をかちとろう！

千葉鉄当局は、3月28日、昭和55年度運転関係新規採用者（予科・一般採）の各区への配属数を提案してきたが、最終的に組合主張を含めて別表のとおり確認された。新採獲得をめぐる闘いは、文字通り国鉄35万人体制攻撃と対決する重要な闘いであり、本日以降、全支部・全組合員の総決起をもって若い仲間の勤労千葉への加入に新採獲得をかちとろう。

新採獲得は、すべからず国鉄35万人体制攻撃と対決する闘いである

今日、国鉄当局は、国鉄「再建」に35万人体制実現にむけて、新規採用の大巾削減（退職者数の二分の一もしくは三分の一）を強行してきている。これは「乗務員運用合理化」「検修・地上勤務の外注化」「ローカル線廃止」等とならば今日の攻撃の大きな柱である。

従って、運転取場にとどめだけの新規採用者を配属させるかは、すべからず国鉄35万人体制攻撃と対決する重要な闘いである。

採用制限のワクを大中につき破った、勤労千葉の三里塚、反合、運転保安闘争

今日、国労・勤労中央が「再建」攻撃に屈服し、とりわけ「安定宣言」路線で当局に卒先協力する「

本部」革マル反動分子の裏切りが全面化する中で、我々は35万人体制攻撃への警鐘を乱打し、独自の闘いをもって先制的な闘いにうつて出たのであった。日常不断に生ずる事故や取場の諸矛盾を35万人体制攻撃の中にきっちり位置づけ、とりわけ三里塚ジェット闘争

と固く結合した反合に運転保安闘争の脅威をもって当局を追い込み、昨秋10・22・5・11の二波にわたるストライキをもって大きな前進を獲得してきた。

当初「20名しか採用しない」とする当局の採用ワク制限をうち破って運転取場新規採用者の数を51名（予科40名、一般採11名）にまで追い上げるといふ成果をかちとってきたのである。（今年度退職者数は58名である）

若い仲間を全員勤労千葉へ！

4月1日付で各区へ配属される新規採用者をどれだけ多くゆが勤労千葉へ獲得できるか、この向の闘いの一切の成果がかかっている。勤労千葉の次代を担う若い仲間として新採全員の勤労千葉加入をかちとろう。全支部・全組合員は総力をあげて若い仲間の、全員勤労千葉加入をめざし、奮闘しよう。

区所	予科	一般	合計
新小岩 栴 栴 区		1	1
津田沼 電車区	3	1	4
幕張	20	1	21
千葉 運転区		1	1
蘇我 栴 栴 支区		1	1
木更津	4		4
館山 運転区		1	1
勝浦		1	1
成田	1	1	2
銚子		1	1
佐倉 栴 栴 区	7	1	8
(新小岩 貨車区)	(4)	(1)	(5)
(越中島 支区)	(1)		(1)
総 合 計	40	11	51

へ一九八〇年度 新採配属数